

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・2・26②)

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

常に指導者としてアップデートしていかなければならないと再確認させられました。それは、技術指導者として技術指導だけでなく人間としての成長も必要だと考えさせられた講習会でした。

とても、勉強になりました。自己研鑽をしていきたい。ありがとうございました。

とても良い研修でした。私自身はもちろんですが、周りの指導者も一緒に複眼を持ち、学び続ける指導者でありたいと思います。また、選手のみなさんに、出会えて良かったと思っただけのチームづくりや指導者を目指し続けたいと思います。

子供達を体罰や暴言で教えるのではなく、言葉で伝える事が大切だと思います。その為には指導者が技術はもちろん、言葉の伝えかた言い方などを学ばないといけないと思いました。

自分の短い教員生活の中においても、部活動の存在意義は大きく変わっていると思います。その中でも体罰・暴言に関する捉え方はだいぶ変わりました。今回の講習でもその点に触れていただきましたが、自分の中でもこれからどうするかという正解が見つかってはいませんが、明日部活で会うこともたちには今までと違った視点で接することができると思います。スポーツを通して得られる喜び・楽しみを伝えていけたらと思います。

はじめは体罰や暴言を防ぐ目的での研修というイメージで受講したが、三輪先生の話聞き、ペアワークする中で指導者としてのあるべき姿について深く考えさせられた。最後はハンドボールを通して生徒の何を伸ばしたいか、成長させられるか、そのために自分に何ができるかもっと追求したい気持ちになった。技術的に十分な指導できないことにコンプレックスがあったが、指導者にもいろいろな形があり役割分担する必要があることを実感した。自分にできることからやろうと思った。勝ち負けだけでなく、生徒の充実感、達成感、自己肯定感の向上のために支援することが重要だと思った。生徒は一人一人違うのでその実態把握と個々に合ったアプローチが大切なのだと再認識した。今日はたくさんの情報や考え方を提供していただきありがとうございました。

私はハンドボール専門ではないのですが、今日の話を経験や専門の科学部への対応を思い出しながら拝聴していました。つい、自分の専門になると、もっと技術や知識を高めたいと思い、内容や技術に関する厳しいことも言ってしまうがちで、人格否定をする言葉は絶対言わないように気をつけようと思いました。暴言を周りで聞いている子の脳も萎縮するのは衝撃的でした。それから、恩返しは後輩や生徒たちへ、という話も共感しました。

優しさは連鎖する、ということを入れて生徒たちに接していきたいと思います。三輪先生のお話を一度聞いてみたかったので、今日は素晴らしい機会になりました。ありがとうございました。

コーチ歴が長く技術指導よりもメンタル的なサポーターとしての役割を意識してきましたが、今日は逆に、自分自身が監督/部顧問の立場となったことを想像しながら、研修を受けさせて頂きました。近年の短時間の練習時間の中、スポーツを通じての競争や勝利を子ども達と一緒に目指しながらも、大勢の子ども達の多様な価値観や、指導側の影響力を意識することを忘れずに、練習以外でのケアや保護者とのコミュニケーションも、これまで以上に大切だなと感じました。もし可能でしたら、保護者向けに撮影した動画でも良いので、各学校のハンドボール部が主体になり、保護者会などで観てもらい、感じて、考えてもらう機会があると、将来を担う子ども達を、指導者と保護者との両面で良いケアが出来るのでは？とも感じました。

部員の為にや、チームの為にと思いが強すぎると「なぜ、伝わらない」「君のために」が暴言や圧に繋がっているのだと感じました。私は今、「For you For me」のバランスだと感じて指導に携わっています。今までの私の価値観と違う部員やその家庭と接して、対応を模索する中で無意識に私の古い考え方、昭和の考え方に出会います。それをアップデートする為に存在しているんだと思うと、部員や家族に「感謝」や「愛情」を感じます。怒り、焦りなどの感情を素直に認め、反省して感謝や愛情を持って接する癖を部員たちから直してもらっているのでは？と感じています。今日の講義で今の自分を改めて確認する時間になりました。良く卒業式では生徒に「これからの世の中は色々な事に対応出来る人材にならないといけない」と話をしたりしますが、それは我々の部員を指導する立場や教員ですね。言動一貫ですね。宮城会長、講師の三輪先生、司会の根路銘さん、担当の仲田先生、我々以上に時間を拘束された中、研修を開くエネルギーに感謝申し上げます。部員は自分の鑑。部員は自分のコーチングの足りない所を教えてくれる為に、彼らを感じる違和感をいろいろな形で出してくるんだと思って接しています。自分の未熟な部分や無知さと向き合うには勇気がある。意識しようがしまいが自分に向き合えない人が暴言やハラスメントになるんだろうと感じました。私も古い人間なので意識していてもいつ何時暴言やハラスメントでハンド界から遠ざかるかもしれません。自分の自覚がなくても相手が傷付けばそうなるのですから。そういう覚悟も持って指導しないといけないと思っています。

久しぶりにこのような研修を受けて、自分を大切に他人も大切になのかなと思います。今まで必ずしもハンド部を見ていたわけではなく、久しぶりにハンド部の顧問になって、やっぱりハンドって楽しいと思いました。ただし、部員と向き合うのは別で、日々悩んでいます。部員との言動や態度、学校生活などでイライラして言い負かしてやりたい気持ちになってしまったり、自分が優位な立場の考えになっているなど三輪先生の話や会長の話を聞いて、また、ペアになった先生と話す事で心のどこかで思い上がっている自分がある事を痛感しました。部活動の持っていく方を私はどんな指導者になりたいんだろうと考えた時に、今回の研修でありたい姿が見えてきました。このハンド部にいて良かった仲間と切磋琢磨して充実したと思える部活動の環境と一緒にいられたらいいなと思いました。一人で部活動を受け持つのは、毎回不安ですが、指導者、保護者、子ども、地域、学校が気持ちよく取り組んでいけたらいいですね。働き方改革を具体的にしていって、いいきっかけにもなると思います。

私たちが指導する選手の中から、将来、指導者になる選手もいるかもしれない。これからの日本のスポーツ界を担う指導者を育てるためには「教育」が大切だと考える。現在の指導者の多くが、実際に体罰や暴言、ハラスメ

ントを大いに受け、育ってきた世代であり、このような過去の経験が、成功体験につながっている指導者が多い。その背景からハラスメントがなくなるという現状がある。その環境を変える大きな力になるのが「教育」である。規則を教えることはもちろんだが「法律があるから」「罰則があるから」だけではなく、モラルや社会規範を育てることが大切である。これからの変化する「社会的常識」に対応する人材を育てることが、よりよい社会に、スポーツ界に変わっていくことができる。様々な教育場面でコンプライアンス意識を高くするべく環境を整えてあげることができるように、研修等に積極的に取り組んでいきたい。

自分が小学生の頃から受けてきた指導を振り返ると、今で言えば体罰に相当する事を受けてきた経験があります。ですが、その時には体罰という認識は全くなく、自分たちが悪い事をしたら怒られていました。(例.小学生の頃、靴箱に靴を片付けずに放置していたらゲンコツされた。) 躰の延長でそのような事が許されていた時代だったと思うし、悪い事をしたら怒られるのが当たり前だと自分自身はとらえていました。ですが、今の時代では暴力や暴言による指導とは異なる方法を考えなければなりません。教師として、次々と変化する社会に対応できる子どもたちを育てる立場だからこそ、自分も環境や相対する子どもたちの変化に対応できるようにしていきたいと感じました。今回の研修を通して、ハンドボールの指導者としてだけでなく、自分の教師としての立ち位置を考える良い機会になりました。

講演ありがとうございます。ハンドボールに関わる経験と経歴は浅いですが、少しでもいい形で生徒に貢献できればと良いと感じました。部活動でしか得られないことがあると思いますが、自身の経験から何を基準にして、どのようなチーム形成をした方がいいのか悩んでいました。しかし、恩師がしてくれた経験をもとに出来ることを新しい価値観で正しいことを取り組もうと決めました。

私は、暴言や体罰をしないと、今回の研修を受けてより決心した。しかし、これから先、暴言や体罰が選手を育てる有効な手段として考える日が来るかもしれない。それをしてもいいと思う日が来るかもしれない。そうならないために、指導者としてそれら以外の指導方法を学び続けていく。

体罰・暴言について、今まで自分はおそらく大丈夫だという気持ちでいましたが、周りから見た自分は果たして本当に大丈夫なのか！？言葉一つが相手に与える影響をもっと重たく考え、常に自問自答しながら指導をしていかないといけないと感じました。そして自分自身、アップデートしながら時代にあった指導を目指していこうと思います。

これまで指導をしていく中で、試合で一勝でもする事で楽しさは生まれてくるのではないかと考えていました。しかし、この研修中で『充実感を与える』事は、勝ち負けは関係ないと学びました。ここにいて幸せと感じられるか、個人個人が認められる場を作り出せるかが指導者にとって必要なのかなと感じました。また、これまでの経験で指導者に体罰を実際に受けた経験がないなと思っていました。しかし、ペアの方と話しているうちに、怒鳴られたり、連帯責任で走らされたり等、私自身が体罰と感じずに過ごしていたのかな？と思いました。体罰を受けた、それを見ていただいても、脳が萎縮すると聞いて、指導者はものすごい影響力があると思いました。やはり、私自身もこれまで選手として指導されてきた事が、今の自分自身の大きな根幹となっているような気がします。今関わっている生徒、これから関わる生徒の人生に大きく影響してくると考えると、私たち指導者が『正しい事を正しく行う』事が

とても重要だと感じました。自分自身が体罰をしない事はもちろんの事、体罰を作り出さない環境作りに努めたいと思います。今日の研修で、これまでの自分を振り返り見直す良い機会となりました。ハンドボールが好き、楽しいと思う生徒たちを増やしていきたいと思います。今日は、研修ありがとうございました。

今回、体罰・暴言は決して指導の一環ではないという事を改めて確認する良い機会でした。今後、指導者としてプレイヤーズ・センタードの意識を持って、コーチングしたいと考えました。

今回の研修会で体罰、暴言に対する意識をもっと強く持たなければいけないと気付かされた。私自身、本日の研修内容と照らし合わせて若い頃の指導方法を振り返ると、反省してもしきれない。現在は体罰は全く無いが、暴言については、まだまだ意識が低いと思う。伝え方や選手に自主性を持ってもらうためのスキルをもっと向上させるように努めていかなければならない。選手に負けないように努力していきたい。

私は、子どもを産んで親になってから体罰や暴言はいけないことだと強く思うようになりました。そして現在、私は選手とのコミュニケーションを大事にする指導者や、選手を認める言葉かけが多い指導者にとっても魅力を感じます。チームスタッフには、ハンドボールの知識が優れている指導者だけではなく、コミュニケーションをしっかり取れる(大事にする)人など複数人が必要だと思います。スタッフの中で、体罰や暴言についてお互いで指摘し合えることもとても大事だと思います。この歳になり、面と向かって人と話し合う機会は本当に少ないです。その人のイメージや人からの噂で決めつけてしまい、歩み寄る姿勢すら無い…寂しいです。指導者同士もたくさんの人々が互いにコミュニケーションを取り気軽に話しが出来たら、体罰や暴言の根絶、抱えているストレスや問題などの解決などにつながると思います。とても良い機会でした。この講習会、是非！保護者にも受講してほしいです。家では『しつけ』なら許されるのか？指導者と保護者で1人の選手について話し合う良いきっかけになると思いました。

今回の悉皆研修は、ハンドボールに限らず全ての競技において重要な講義であったと改めて感じた。体罰を0にすることは今すぐにはできないことだと思うが、今回研修で学んだことを指導者一人一人が意識することで、限りなく0に近づくとと思う。これからの現場でも生かしていきたい。

今回の研修会を行い、また改めて考えていけないことがあると感じました。昨年コーチ3の講習会を行い、体罰について多くのことを学びました。私が体罰ではないであろうと思っていたことが現状体罰であることはたくさんあります。その中でも「心罰」は改めないといけないと思います。暴言による心の傷は一生残るという言葉は当たっていると思います。言った側は気づかないし、言われた方は一生その言葉を思いながら過ごすと思います。相手が言われたら嫌と思う言葉を口にしない。相手のことを思いながら発言するようにしていきたいと思いました。この研修会は部活指導にも、学校現場でも必要なことだと思うので受講出来て良かったです。また1から指導方法について勉強しながらやっていこうと思います。ありがとうございました。

自分自身が置かれてきた環境と、今の生徒たちの環境では、大きく変わっているというのを改めて感じ、経験上から良かれと思って、体罰や暴言による指導をするのは、今の時代にそぐわないということを再認識しました。私は体罰や暴言などの上から押さえつける指導ではなく、生徒の中に落とし込むよう、よりコミュニケーションを多くとるということを意識して、日々の指導を心がけています。また生徒たちが、卒業後もハンドボールを通して、様々な

コミュニティを作るきっかけになったり、ハンドボールをやっていて良かったな、ハンドボールが好きだと思えるように指導していきたいと思います。

今日は講演会ありがとうございました。『目先の一勝よりのその子の一生』、『自分の経験が必ずしもその子に合っているとは限らない』などなるほどと共感する場面がいくつか見られました。私は学生時代野球部でハンドボールの知識はそれほどありません。その為技術指導は他の先生方よりできない部分も多く生活面に向けてミーティング等で話しているつもりです。まずは普段の生活がしっかりできてから、プレーは二の次と思っている人間なのでそのようなことができていないと怒る場合もあります。私は暴言に対してまだしっかりと理解できていないと思いました。まだまだ勉強不足、これからも日々学びその子の一生に関わる指導がしていきたいと改めて感じました。

洗脳という言葉は私にとって衝撃だった。無意識のうちに「勝つため」に必要なならば多少の暴言などは許容されるべきではないかとかかつて考えていたからだ。中学、高校とチームメイトにプレーに関して、暴言に近い強い要求を出されることはよくあったが、大学では全くなかった。私自身、勝つために要求するのであれば多少言葉が強くても問題はないと考え、強い言葉は私に向けられた期待だと捉えていた。現在でもあれは期待の表れであったという認識は変わらないが、表現手段としては大きな過ちであることに気づいた。この気づきがないまま指導者になっていたらと考えると恐ろしく思う。ハンドボールを通して生徒が自主的に考え行動できるようになり、この場所で一緒にハンドボールができて良かったと思えるような環境を作れる指導者になりたいと考える。

これまでの自分自身を振り返る機会となり有意義な時間になりました。やはり自分自身を成長させ続けることでしか向上もないことを再確認できました。多くの学びの中で心に響いたことは、体罰や暴言によって、一部の選手へのアプローチのために多くの不幸せな子どもを作るということ。これまでの自分自身の指導においてもそのような犠牲者を少なからず作ったのだと思うと申し訳ない気持ちになります。その教え子たちのためにもこれからの教え子に対し、良き変化を与えられる指導者になります。自分自身が指導する立場で思い通りにいかないとき、うまくいかないとき、自分自身の余裕がないとき、理性的な行動を取り続けられるよう研鑽を積むことはもちろん、日々の生活で自分自身を省みる時間を1日の中に確保します。「自分のエゴではないか？」「選手のための行動か？」今回の研修の中にも、受講者が主体的に学べる工夫がたくさん盛り込まれていました。私なりの工夫も日々の活動に入れ続ける習慣を身につけます。自分自身を見つめ直す貴重な機会をいただいたこと、感謝します。ありがとうございました。

再認識のため、今回のような研修が年に1回程度あってもいいと思う。部の顧問が変わるため、新年度が始まって早い時期での開催が好ましい。